

議会だより



「もがみに伝わる昔語り」

平成最後の年に再発足した「とんと昔この会」。最上に古くから伝わる昔話には、残していきたい言葉や教訓がありました。11Pの「私の想い」をぜひご覧ください。



12月 定例会

CONTENTS ◎ 目次

- 02. 新年のご挨拶・全議員の抱負
- 03. 編集委員が行く④
「公共ライドシェア始まる!」移動支援の実態取材
- 06. ピックアップ議案審議
「予約制乗合いバス 利用者の使いやすさを求めて」ほか
- 08. 町政を問う 5議員が一般質問
- 11. 私の想い 「とんと昔この会」



【編集後記】

農作物の鳥獣被害と言えば、「とっきび」が頭に浮かびます。「明日、収穫しようと思っていたのに」その日の早朝畑へ行くとタヌキやアナグマ等の小動物にとっきび(トウモロコシ)を荒らされてしまったという経験がある方は多いのではないのでしょうか。お盆に帰省するお子さんやお孫さんに食べさせようと大切に育てたのに、動物たちはどうして食べ頃を知るのでしょうか。被害を防ぐために黒い糸を張り巡らせたり、防護網をかけたり。それでも効果がなく悔しがるお母さん達のお茶飲み話を何度も聞いたことがあります。

しかし、この頃の有害獣被害はそれでは済まされないほど深刻になってきています。クマの出没については、「畑で働く人が少なくなったからだ」という意見もあります。都市部とは違い最上町では、クマの住む山と隣り合わせに生活してきました。これからクマとどう付き合っていくのか考えなければなりません。

(栗林 浩子)

広報編集委員会

委員長 山崎 香菜子
副委員長 宮本 浩
委員 栗林 浩子
委員 佐藤 正市
委員 菅 孝
委員 須貝 康幸



「冬の保存食」

最上町の冬は寒く厳しいものですが、楽しみもたくさんあります。色とりどりのお漬物は、モノクロになる冬の暮らしに彩りを添えてくれます。漬物名人がたくさんいて、十人十色の味がある。写真の漬物は、富山馬頭観音のさんげさんげで振る舞われたもの。いいあんべの漬物を楽しめる冬の暮らしが私は好きです。

(山崎香菜子)

もがみの魅力再発見
めっけ!

議会の主な動き

10月12日(日) 最上町芸文協設立50周年記念式典・祝賀会

式典では、これまでの歩みを振り返るとともに、功労者への感謝の言葉が述べられ、芸文協が地域文化の発展に果たしてきた役割を改めて感じるひとときとなりました。祝賀会では交流を深めながら、今後の活動への思いを共有しました。最上町芸文協は「これからも地域に根ざした芸術文化の継承と発展に向け、歩みを続けてまいります」と決意表明をされていました。



11月26日(水) 大崎市・加美町・最上町 道路要望活動

主要地方道「最上鬼首線」、一般県道「最上小野田線」、「鳴子小野田線」の早期整備促進に向けて、各自治体と議会とで構成する道路改良促進期成同盟会として山形県と宮城県に要望活動を行いました。三路線の整備は、三市町村にある温泉地や名勝地、ダムを資源とした周遊観光の役割を果たすもので、今後の要望路線を新たに考えていく必要性も話されました。



12月8日(月) 瀬見郵便局 開局式典

小雪が降り注ぐ中、地域の皆様や関係者が集い、新しい郵便局のスタートを温かく見守りました。式典では神事に続いてテープカットが行われ、笑顔と拍手に包まれながら門出を祝いました。局長は「これからも地域に寄り添い、暮らしの中で気軽に立ち寄れる身近な存在として心を込めた対応で皆さまをお迎えしてまいります」と力強い挨拶をされていました。



12月定例会

議会インターネット配信

傍聴者数

5名

視聴回数

750回

2026 No.191
最上町議会だより

発行 / 最上町議会広報編集委員会
最上町役場 / 山形県最上郡最上町大字向町644

議会議案のご案内

次回の定例会は
3月 定例会です

お問い合わせは議会事務局まで ☎43-2362 (直通)

デザイン・印刷 / 合同会社 クロスプランニング

特集「公共ライドシェア、始まる！」

公共ライドシェア
って何？

公共交通が不便な地域で、地方自治体やNPOなどが主体となり、一般ドライバーが自家用車を使って有償で住民を送迎する仕組みで地域住民の移動手段を確保することが目的です。



移動支援を必要とされている方の正確な数字は分かりませんが、高齢者世帯数などの数字から町の状況が見えてきました。

数字で見る町の状況

2025年12月1日から2026年3月末までの期間で最上町版公共ライドシェアの実証実験が始まりました。住民の利便性はどうか、か、設定価格や条件などは適正なものなのか、利用者や事業者の声を聞くと同時に、広報編集委員でも体験し、町内の移動支援の実態を取材しました。

高齢夫婦世帯数

男性、女性65歳以上 ※令和7年3月31日時点

392世帯

(うち75歳以上)

92世帯

1人暮らし高齢者数

65歳以上 ※令和7年3月31日時点

351人

男性141人

女性210人

(うち75歳以上)

194人

男性 58人

女性136人

高齢者運転免許
自主返納者数

※令和6年度 町自主返納促進事業申請分



29人

予約制デマンドバスの
利用実績

※令和7年12月26日時点

登録者数

712人

利用者数のべ (令和7年4月～12月)

6,820人

月平均
757人



新年の抱負

～ 走る 2026! ～

新年明けまして おめでとうございます

令和8年が皆様にとりまして、幸せな年になります様 祈念致します。

今日、我々の住む地方の様々な課題解消に向けて国では地方分権の確立、地方創生等の政策を通じながら地方の活性化に向け取り組んでから、かなりの時間が経過しましたが、十分な効果が出ていない様に思われます。地方自治の柱となる人口減少が、想定以上の速さで起きています。それらの根本的問題の解決策の一因として関係人口・交流人口の増加が重要視されています。そのためには、道路整備等のインフラ事業の早期実現を国・県へ要望する必要があります。当町の道路整備につきましては、「みちのくウエストライン」(宮城県石巻市から山形県酒田市の道路)の必要性が認められ、ようやく一歩前進しましたが、問題・課題が山積しているのが実態でありますし、現国道47号においても昨今の異常気象等により通行制限が行われる状況にあり、国・県、関係団体等と強力に連携し、要望活動を行う事が必要と思われまますので、町民の皆様は今まで以上のご理解とご協力をお願いし、年頭の挨拶と致します。

最上町議会議長 伊藤 一雄

新年明けまして おめでとうございます

令和8年が皆様にとりまして、幸せな年になります様 祈念致します。

今日、我々の住む地方の様々な課題解消に向けて国では地方分権の確立、地方創生等の政策を通じながら地方の活性化に向け取り組んでから、かなりの時間が経過しましたが、十分な効果が出ていない様に思われます。地方自治の柱となる人口減少が、想定以上の速さで起きています。それらの根本的問題の解決策の一因として関係人口・交流人口の増加が重要視されています。そのためには、道路整備等のインフラ事業の早期実現を国・県へ要望する必要があります。当町の道路整備につきましては、「みちのくウエストライン」(宮城県石巻市から山形県酒田市の道路)の必要性が認められ、ようやく一歩前進しましたが、問題・課題が山積しているのが実態でありますし、現国道47号においても昨今の異常気象等により通行制限が行われる状況にあり、国・県、関係団体等と強力に連携し、要望活動を行う事が必要と思われまますので、町民の皆様は今まで以上のご理解とご協力をお願いし、年頭の挨拶と致します。

最上町議会議長 伊藤 一雄

佐澤 浩 ▶

町長の新年の抱負

菅 孝 ▶

町長の新年の抱負

尾形 勝雄 ▶

町長の新年の抱負

栗林 浩子 ▶

町長の新年の抱負

山崎香菜子 ▶

町長の新年の抱負

佐藤 義男 ▶

町長の新年の抱負

宮本 浩 ▶

町長の新年の抱負

須見 康幸 ▶

町長の新年の抱負

佐藤 正市 ▶

町長の新年の抱負



「あるタク」に期待する町民の声



- 病院へ行くときにはデマンドバスを利用しています。低価格で便利ですが、時間が決まっているので好きな時間に乗れる「あるタク」も利用したいと思います。
- 運転免許更新まであと一年あるが、次回は更新しない予定なので「あるタク」のサービスが始まって安心しています。
- 向町に住んでいるので買い物や通院も今のところ徒歩で行けませんが、天気の悪い日や今後の不安を感じていた為、「あるタク」のサービスは良いと思い早速登録しました。

みんなの家 100歳体操
参加者のご意見

今はお父さんが運転免許を持っているけど、返納後に必ず困るのでありがたいです。通院や買い物などに使いたい。

わたなべ やすこ
渡辺 泰子 さん
(向町)



30分前に予約できるのは大進歩だと思います。さらに短縮してもらえればより使いやすいですね。また、町外者も当日登録で利用可能と聞きました。駅からの2次交通としても、大変有意義だと思っています。

おおいし しんいちろう
大石 紳一郎 さん
(向町)



公共ライドシェア他自治体の事例と町に期待すること



まとめ

本企画において実際に利用してみた内容や様々な方の声をお伝えしてまいりましたが、最上町だけでなく、県内外の様々な自治体で公共ライドシェアの実証実験が行われています。多くは既存のタクシー会社との連携によるものですが、タクシー会社がない地域においては、当町のように公共ライドシェアとデマンドバスや循環バスとの組み合わせによって交通空白の解消を目指すものが多く見られました。

例えば北海道大樹町では市街地の循環バスにつなげるための公共ライドシェアの実証実験を実施しており、郊外の遠方地域は片道1、000円、その他は700円という設定をされています。各地域が抱える課題に対応した事例も多く、長崎県雲仙市や佐賀県武雄市の共助版ライドシェアは山間部から市街地への塾や習い事へ通う子どもたちの利便性向上と保護者の皆さんの送迎時間短縮等を目指すものでした。

他にもインバウンド向けのものや季節スポットのみの観光用公共ライドシェアなど、地域活性につながる目的での実施も見受けられました。また、ライドシェアではありませんが、山形県中山町では65歳以上の高齢者と障がい者等を対象とした公共交通としてのタクシー利用助成制度があり、1回500円で乗車することができます。

当町も市街地から離れた地域に居住されている方が多く、タクシーの利用料が高額になってしまう場合があります。他自治体の事例も参考にしながら、交通弱者に対して移動負担を軽減していく必要を感じました。実証実験後の本格運行に向け、しっかりと町民のニーズを捉え、反映していくことを期待しています。

～令和7年12月1日から始まった「あるタク」を利用してみました!～

今回は体験で9時30分に最上駅から乗車して病院に向かい、そのまま病院から向町のスーパーで降りることにしました。



「あるタク」詳細はこちらから▶



参考運賃：
赤倉温泉駅→赤倉ゆけむり館(片道 3km) 運賃1,600円
最上駅→瀬見せみの湯(片道10.9km) 運賃5,600円

1 まずは、利用者登録

専用ダイヤル
080-7585-9527

に電話して名前と生年月日、住所、連絡先を伝えるだけであっという間に登録完了!



2 利用予約

名前・地区・乗車場所・降車場所・利用時間・人数を伝えます。

※朝の時間(6:00～9:00)と夕方から夜の時間(17:00～21:00)は前日までに予約が必要で、それ以外の日中の時間(9:00～17:00)は30分前までに予約して利用出来ます。



3 いざ、乗車!

車高が低いので乗りやすく最大5人まで乗ることが出来ます。



5 降車・お支払い

今回の支払いは最終的に1,200円でした。ちなみに待機料は6分30秒までは無料なので、ちょっとした用事(銀行ATM利用など)は済ませることができそうです。



4 最上病院に到着

3分程度で到着。最上駅から病院までは初乗り運賃(700円)でした。

※取材時は冬期間(12月から3月)なので初乗り700円でしたが、通常期間は600円です。

運行しているNPO法人アルカディアもがみの方にお話をお聞きしました。

取材時(12月17日)で登録者数52人(県外1人)、利用回数25回で1日3～4件程の利用があり、ドライバーは現在6名で運行しているそうです。主な利用としては、向町中心部の移動や夜の時間帯で飲食店を利用した方の利用も増えているそうです。また、県外観光客の方で赤倉温泉から赤倉温泉駅まで利用もあったそうです。予約制乗合バスの予約センター業務と公共ライドシェアを同じ事業者がやっている強みとして、利用者の方に、どちらの利用がより便利なのかを提案できるという事もあるようでした。

「今年の3月までの間に利用者の声や課題を洗い出しながら、4月からの本運行に向けて取り組んでいきたい」とのことです。

12月定例会審議案

■人事案件 …… 1件

・最上町人権擁護委員

■専決処分 …… 1件

・令和7年度一般会計補正予算（第5号）

■指定管理者の指定 …… 2件

・最上町ふれあいの里の指定管理者の指定について
・道の駅もがみの指定管理者の指定について

■条例の設定・制定 …… 8件

・最上町乳幼児等通園支援事業の設備及び運営に関する基準を定める条例
・最上町予約制乗合バス運行に関する条例の一部を改正する条例など

■総合整備計画の策定 …… 1件

・赤倉辺地に係る総合整備計画の策定

■規約の一部変更 …… 2件

・最上広域市町村圏事務組合規約の一部変更
・最上圏域下水道共同管理協議会規約の一部変更

■補正予算 …… 9件

・令和7年度 一般会計補正予算（第6号）
・令和7年度 最上町国民健康保険事業特別会計補正予算（第3号）など

計24件

原案どおり可決

12月 定例会

〔会期〕
12月10日(水)～11日(木)

Pick up!

道の駅もがみ 今後の発展

問 道の駅もがみの指定管理者の2年間の評価とこれから期待することは。

答 道の駅の評価としましては、24時間使用可能なトイレの清潔が保たれ、駐車場も整備されている他、丁寧な情報発信をいただいています。道の駅、ヤナ茶屋、観光協会が連携し開催しているイベントなども好評です。期待することとしては、道の駅から町内各地へのお客様の誘導です。そのためには観光協会の協力が不可欠なため、観光協会へ誘導するための案内看板などの設置も考えています。また、指定管理を受けた民間事業者が、自主事業で対岸につり橋をかける工事を進めており道の駅の魅力アップに期待しています。

Pick up!

ふれあいの里の 利用拡大策

問 健康増進施設（万騎ノ原多目的運動場・室内運動場など）の利用状況と今後の利用拡大・運営の安定化（料金見直しなど）への取組はどのように考えているのか。

答 利用拡大を念頭に、毎月15日～21日を健康増進週間として割引を行っておりま。また、町内のスポーツ少年団などの利用については、減免をしております。こうした取り組みの検証を行いながら引き続き、より良い運営と町民の健康増進のための検討をまいります。

問

町外の利用者向けに、PRの手段としてホームページの活用がありますが、何度もクリックしないと目的のページに行けないもどかしさを感じる。もっとホームページの改良が必要ではないのか。



ふれあいの里

答 指摘のあったホームページやチラシの効果を最大限に活かせるように改善してまいります。

Pick up!

有害鳥獣対策

問 有害鳥獣の捕獲から処理までの流れは。

答 住民の方から農の設置の依頼があり、猟友会の方が農の設置から捕獲処理までを行います。捕獲後の処理は、山に埋設するか焼却処分、または自家消費していただいています。農の設置期間は2週間で延長も可能です。また、クマ1頭に付き捕獲料として22、000円（設置・エサ・見回り・弾代等）、捕獲できなくても

問 エリアの再編やダイヤ改正に伴って台数を増やす考えはないのか。

答 7月にランドマークを12ヶ所から25ヶ所に拡大しました。利用者数は、20%に近い増加となっています。



クマ対策備品

答 10月からクマの出没が続いている中で、住民の敷地内に入ってくる事案があり緊急性があることから専決処分とし、クマの追い払い用品、職員の防護用品等を購入しました。役場の防災倉庫にて保管しています。

問 有害鳥獣対策費補正の詳細は。

17、000円（農の設置を見回り）となっております。また、猟友会より処遇改善に関する要望書の提出もあることから、今後改善に向けて検討してまいります。

人事案件

■人権擁護委員

任期：令和8年4月1日から令和11年3月31日まで

ほろじょう せいえつ

北條 清悦 氏（向町）

指定管理者

■最上町ふれあいの里

任期：令和8年4月1日から令和11年3月31日まで

社会福祉法人 豊寿会

■道の駅 もがみ

任期：令和8年4月1日から令和13年3月31日まで

株式会社 大場組



町の賑わいづくりが急がれる

問 令和7年6月定例会において、総務文教常任委員会の最終報告では人口減少でコミュニティ機能が希薄化する中で、子ども、高齢者、障がいのある方などが一緒に交流できる「新しい場所」が必要だと提言しました。図書館や天候に左右されない子どもの遊び場、誰でも利用できる仕組みを備えた多世代共生型の複合施設を整備することで、町の賑わいづくりや定住促進にもつながると考えますが、町長の考えは。

町長 慎重に検討する必要があると考える

新たな複合施設整備の考えは

答 多世代が交流できる場づくりは人口減少社会でもとても重要だと考えています。図書館をはじめ、子どもが年間を通して楽しめる屋内施設、高齢者や障がいのある方も利用しやすい施設の創設は、地域の賑わいづくりや定住促進にもつながる重要な施策と捉えております。ただ、すぐに新しい複合施設を建てる段階にはありません。財政面や将来需要、既存施設の活用や機能の集約、公共施設全体の最適配置を考慮しながら慎重に検討する必要があります。この取り組みを進める際には住民の意見を広く聞き、国や県、民間団体等の支援策を効果的に盛り込むことが重要であると考えています。

動画はこちらから



みやもと ひろし
宮本 浩議員

質問のねらい

中心市街地でも廃業や他市町村への移住による空き家、空き地が年々目立ってきている中で、町の活気が失われて、寂しい町になってしまうのではないかと危機感を感じています。



最上のまちづくりに熱き提言

5議員が一般質問

- 発言順 1 須貝 康幸 「有害鳥獣対策推進について」「町の伝統芸能継承について」
- 発言順 2 宮本 浩 「DX推進について」「多世代共生型の新たな複合施設の考えは」
- 発言順 3 栗林 浩子 「害獣による農業被害対策と害獣駆除について」「多様性社会における地域コミュニティについて」
- 発言順 4 山崎香菜子 「定住のための行政サービスや支援を」「悪天候・災害・熊出没に応じた登下校対策マニュアルの作成を」
- 発言順 5 佐藤 正市 「最上町の財政状況について（第五次最上町総合計画前期基本計画総括）」

問 議員質問 **答** 町長答弁 **答** 教育長答弁

※掲載している文章は抜粋したものです。詳しくは各議員のQRコードからご覧下さい

一般質問とは

議員の調査研究、住民の声や自身の考え方をもとに、町長や教育長などの方針を問うものです。

安心安全をどう確保するのか 支援体制の充実を県と連携します

町長

問 町内にてかつてないほどのクマの出没が続いており、また関係各所が連携を図り対策に取り組んでいただいている事で、人身被害が出る事もなく過ごすことが出来たと感謝しています。今後の有害鳥獣対策推進についての考えは。

答 クマ捕獲数が過去最高の95頭に、猟友会から要望書も頂き、検討を重ね推進を行っています。来年以降につきましても、パトロール体制の強化、情報発信の迅速化、クマの個体追跡の動向情報収集を行い、猟友会の負担軽減につながる支援体制の検討などについても県と連携しながら進めていきます。

問 伝統芸能の継承をどのように考えているのか。

答 ふるさと塾アーカイブスを活用し記録・保存に取



本城盆踊りでの最上町音頭

り組み、映像や画像データなどのデジタル技術を活用し町内に文化的魅力を広く発信していきます。また、芸文祭の事業運営や「文化伝承活動支援事業」を通じた団体活動の助成を継続してまいります。

質問のねらい

町民の安心安全の確保並びに郷土愛育成の体制作りの充実を図るため質問致しました。



すがい やすゆき
須貝 康幸議員



動画はこちらから

クマやイノシシによる農業被害対策

町長

電気柵設置への助成制度を導入

問 クマやイノシシの出没が大きな問題になっているが、農作物への被害、防護対策、ガバメントハンターの雇用やハンター育成支援、農の遠隔監視・遠隔操作ができるICT機器の導入は。

答 電気柵の設置に関しては、県との協調助成制度を導入しているほか多面的機能支払い交付金や中山間地域等直接支払い制度でも取り組んでいます。

答 ガバメントハンター制度の導入については先進自治体を参考に検討します。また、担い手育成の観点から新規狩猟免許取得等支援事業に取り組んでいます。

多様性社会における 地域コミュニティ

問 地域コミュニティやまちづくりへの参加に必要な性を感じない世代が増えている。若者が参加しやすいまちづくりとは。

答 若者の参加については、時間的な負担を軽減し参加しやすい環境を整備するこ



最上町広域協定による電気柵設置（笹森）

とが重要であり、デジタル技術を活用することで、若者の得意分野を活かした効率的な活動が可能になると思います。また行政の主導ではなく町民自らに気づいてもらう必要があり一人一人が期待されているという自覚こそがまちづくりの魅力を発信していく意識に変わっていくのではないかと期待しています。



動画はこちらから

質問のねらい

地域コミュニティやまちづくりは、若者の意見に耳を傾け行政も変わって行かなくては、最上町の未来をは見えてこないのではないかと。町民が行政を動かすまちづくりに期待。



くりばやし ひろこ
栗林 浩子議員

定住につながるサービスや支援を

町長 町民のニーズに即した政策を展開します

不便さから町外へ転出せざるを得ないという声を多数聞いている。特に当町のデメリットになっている町外への高校生の通学や高齢者の通院、除雪の負担を軽減するような支援が求められる。流出を止めるためにも、広く意見を収集できる世代別アンケートを実施できないか。

通学・通院の足を支えるため、JR代行バス運行の改善に向けたアンケート調査を行い、ダイヤ改正の要望活動を行っております。除雪の支援については間口除雪などを行っています。他自治体では小型除雪機の購入に対する支援を行っており、当町でも検討中です。

災害・クマ出没に応じた登下校対応

クマの出没について保護者が送迎の対応に追われていることから、今後同様のことが起きた際に徒歩通学者をスクールバスに乗車させるなど、災害に合わせたマニュアル



熊出没の危険性から登下校の見守りを強化

や対応の見直しはできないか。

登下校時のパトロールの強化や、クマ鈴の配布、保護者の勤務先への配慮・協力要請など、あらゆる対応を進めています。今後クマの出没や豪雨災害といった突発事態発生時には、徒歩通学者であってもスクールバス等の柔軟な運用支援を検討してまいります。

動画はこちら



質問のねらい

移住定住を促進するにも、まずは住民の困りごとを解決することが何よりも大切です。当町ならではの支援やサービスがあれば人口流出も防げるのではないのでしょうか。

町の財政状況について

町長 財政構造の持続可能性を高める

町の財政は、町民の皆さまから、お預かりしている税金や国・県からの交付金をもとに運営されています。日頃の町政運営にどのような影響があるのか将来に向けてどのような課題があるのかを確認することにも、現状の財政状況の評価、将来負担の軽減策、中長期的な財政健全化の方針など、町の考えを包括的に伺い、今後の施策について伺います。

財政は、直近の健全性を保ちつつも、余裕は見込めず、日常サービスの維持と将来投資の両立を図るには、「歳入の確保」「歳出構造の見直し」と「選択と集中」を進めることが重要と認識しております。人口減少に伴う税収の減少、社会保障費の増加、災害復旧、公共施設更新等、複数のリスクが想定され、的確に対応することが財政健全化の鍵になると考えます。更に「国・県補助金の最大活用」「ふるさと納税の更なる強化による歳入の確保」「事務事業の棚卸し

を通じた重複・非効率の排除」「公共施設マネジメントを軸とした維持管理費の最適化」「重点投資分野の明確化」を柱として、財政構造の持続可能性を高めてまいります。



質問のねらい

町の財政状況の現状と課題を把握し、将来の人口動向や事業継続を踏まえ、健全で持続可能な財政運営の方向性を明確にし、将来を見据えた持続可能な財政運営の方向性を確認する。



佐藤 正市議員

私の想い

最上の方言で昔から伝わる話を傳承されている「とんと昔この会」さん。小学校や保育施設に赴き、表情豊かに昔語りをされる皆さんの想いを聞きました。

消えかかる最上の方言と物語を次世代へ

小嶋 智恵さん
田宮 千加子さん



発足のきっかけ

元々は40年以上前に、最上町の郷土史家である佐藤義則さんが発足した会です。当時は30人以上の語り部がいたと聞いています。義則さんが若くして亡くなり、語り部もだんだん減っていき、しばらくは3人で活動されていたそうです。

佐藤義則さん没後38年目にあたる平成29年に義則さんを偲ぶ会が開かれ、文化的な足跡を辿りながらその功績を語り合いました。この時、語り手が斎藤悦子さんお一人になったことがわかり、何とか継続させようと再発足の契機となりました。

昔語りを通じて子どもたちに伝えたい

最近では方言を知らないお子さんも増えていて、昔語りを通じて最上の方言を伝えていきたいという思いがありますね。それに、昔話の中には人生を生きていくための教訓のようなものが含まれています。学校もなかった時代は、おじいちゃんやおばあちゃんから聞いたお話から色んな知識や教訓を身につけていたのだと思います。だから、昔語りを最後に「だから～すんなよ」という言葉が入っているんです。

変化した伝わってきた昔話の面白さ

義則さんが残してくれた昔話は、町を隅々まで歩いて聞いた話で本当に貴重なものです。最上町だから生まれた話もあり、富山の薬売りなどを通じて全国に伝わる同じような話が口承されていく中で、地域や人によって変化が生まれ、その土地らしい話に変わっているのも面白さのひとつです。

幅広い世代に興味を持ってもらえたら

話し方を統一したりせず、表現の仕方は話し手に任せています。人によつては紙芝居のようなものだったり、話し方や表情を工夫されたりしていて、子どもたちに親しみやすくアレンジしています。子



どもたちだけでなく若い世代にも興味を持っていただける機会や、町の魅力の一つとして観光などにも活かしていただき、みんなで守っていけたら嬉しいですね。



昭和41年に発行された著書「小国郷のトント昔」には100を超えている昔話が収録されています。その復刻版が令和7年に会のご尽力により発行されました。「とんとむかすあつたけど」で始まる昔話をぜひ聞いてみてください。



二次元コードから山形県が作成している「ふるさと塾アーカイブス」にアクセスしていただくと、とんと昔この会の昔話の様子をご覧いただけます。